

研究協力をお願い

昭和大学藤が丘リハビリテーション病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

強膜内固定術における眼内レンズ摘出方法別術後経過の比較

1. 研究の対象および研究対象期間

研究対象

2016年1月から2021年9月までに昭和大学藤が丘リハビリテーション病院にて眼内レンズ亜脱臼・脱臼症例に対して眼内レンズを摘出し、強膜内固定術を施行した患者さん。

研究対象期間

2016年1月1日～2021年9月30日

2. 研究目的・方法

研究目的

眼内レンズ偏位・脱臼などの眼内レンズ二次挿入術において、最近では強膜内固定術が用いられることが多くなっています。眼内レンズを摘出する際には、眼内レンズを折り畳んで摘出する方法や、眼内レンズを切断して摘出する方法、切開創を拡大し、眼内レンズの形そのままに摘出する方法等があります。本研究では、眼内レンズ二次挿入術における眼内レンズの摘出方法の違いにより、強膜内固定術の術後経過において違いが発生するかどうかを検証します。

研究方法

2016年1月から2021年9月までに昭和大学藤が丘リハビリテーション病院にて眼内レンズ亜脱臼・脱臼症例に対して眼内レンズを摘出し、強膜内固定術を施行した患者を対象とします。本研究では、眼内レンズ二次挿入術における眼内レンズの摘出方法の違いにより、強膜内固定術の術後経過において違いが発生するかどうかを検証します。調査項目は、平均年齢、平均観察期間、術前後の矯正最高視力(logMAR)、術後矯正最高視力が得るまでの期間、角膜内皮減少率、惹起乱視(Jaffe法)とします。

研究期間

昭和大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「結果通知書の承認日」より、実施医療機関の長の研究実施許可を得てから2023年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

評価項目：平均年齢、平均観察期間、術前後の矯正最高視力(logMAR)、
術後矯正最高視力がでるまでの期間、角膜内皮減少率、惹起乱視(Jaffe法)

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学藤が丘リハビリテーション病院 眼科 氏名：山田 美穂

住所：神奈川県横浜市青葉区藤が丘 2-1-1 電話番号：045-974-2221

研究責任者：山田 美穂